資料４

学校施設・運営面での教育課題

１.不登校児童生徒への支援

２.特別支援教育

学校施設・運営面からの教育課題

今回の会議で扱う項目

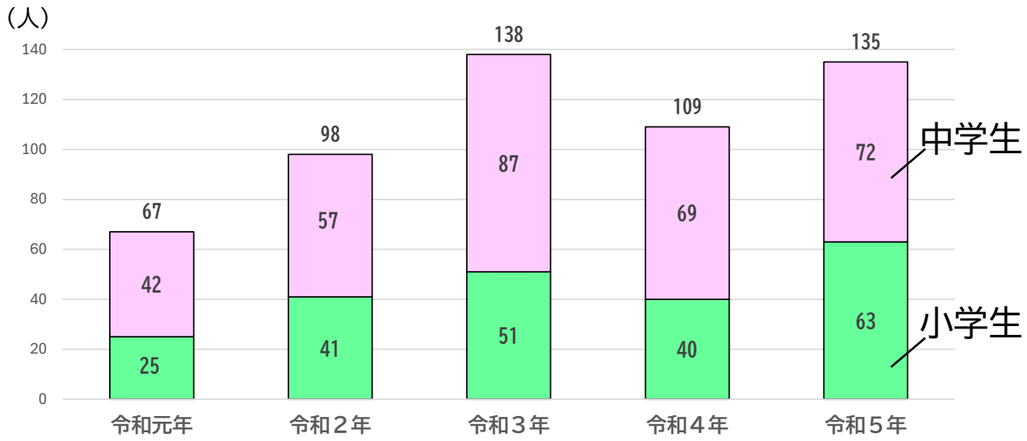
教育課題	白岡市の実態・課題
1 不登校児童生徒への支援	・長期欠席児童生徒、不登校児童生徒は新型コロナウイルスの感染拡大期間に急増し、いったん減少後再度増加傾向にある。 ・白岡市教育支援センターの在籍者数は増加傾向にあり、特に小学生の在籍者が近年急増している。
2 特別支援教育	・特別支援学級の児童生徒は年々増加傾向にあり、大規模校などの児童数増加校では、今後教室の確保が課題となる。 ・学校別では、西小学校において特に増加傾向が著しい。 ・通級指導教室の設置は一部校に限られており、未設置校の児童（南小学校・菁莪小学校）は、保護者の送迎のもとで他校へ通級する必要がある。
3 通学路・通学距離・通学手段等	
4 コミュニティ・スクールの実施状況	
5 地域との連携	
6 学童保育・放課後子ども教室の状況（複合化）	
7 プール等への対応	
8 給食等への対応	
9 部活動について	

1 不登校児童生徒支援への支援

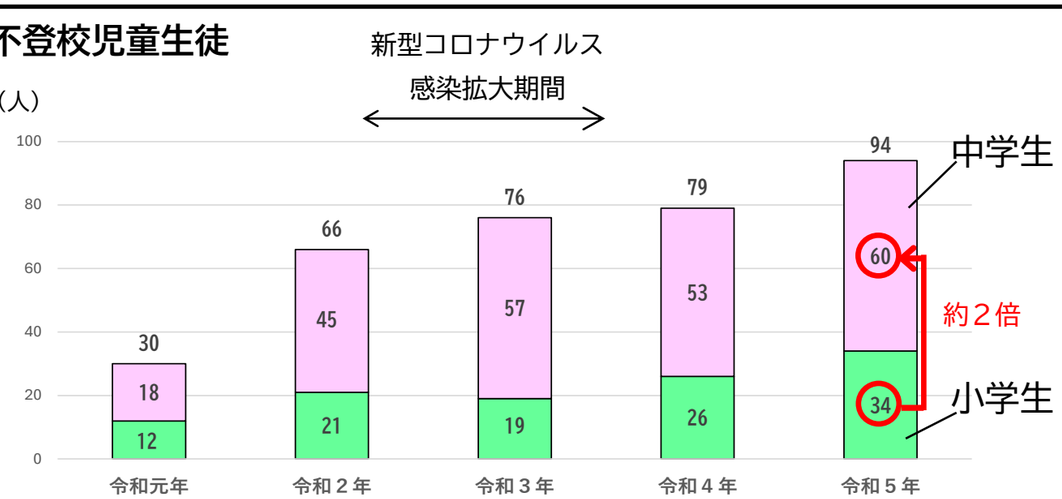
① 長期欠席・不登校児童生徒の推移

- 年間30日以上の長期欠席児童生徒数は、令和５年度で小中学生あわせて135人。
- 不登校児童生徒数は、中学生が小学生より多くなっており、中学校進学後に不登校となる子どもがいると考えられる。
- 小学生の不登校児童は、新型コロナウイルスの感染拡大期間から増加している。

■長期欠席児童生徒



■不登校児童生徒

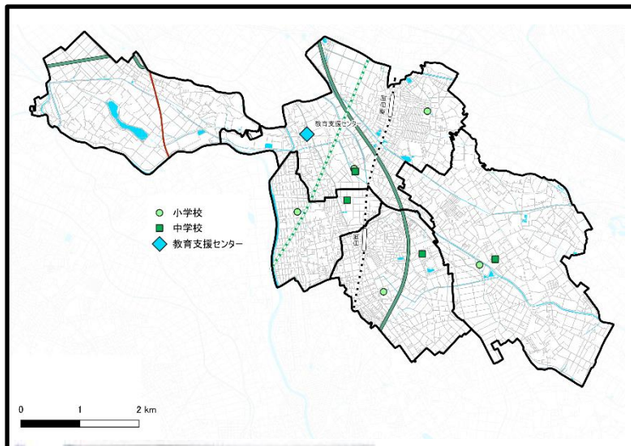


※長期欠席のうち、病気や経済的な理由によるものではなく、何らかの心理的、情緒的、身体的、社会的要因によって登校できない状態にある児童生徒

・不登校児童生徒数、白岡市教育支援センターの在籍者数は、ともに新型コロナウイルス感染拡大期間の前後で倍増の傾向にある。
・白岡市教育支援センターについては、従来は中学生が在籍者の大半を占めていたが、近年では小学生の利用者数が増加している。

② 白岡市教育支援センター

- 教育支援センターは、児童・生徒支援（適応指導教室）と、保護者・学校支援機能を持つ施設で、市役所篠津分館の２階に設置されている。
- 不登校の子どもが、社会的に必要な適応力の習得（目標は高等学校への進学）ができるよう、支援員による学習サポートが行われている。
- 開校日は、白岡市立小中学校の開校日と同一日となっている。開室時間は、 9:20～15:00となっている。
- 支援員は、月一回の学校訪問を行いながら、情報共有を行っている。

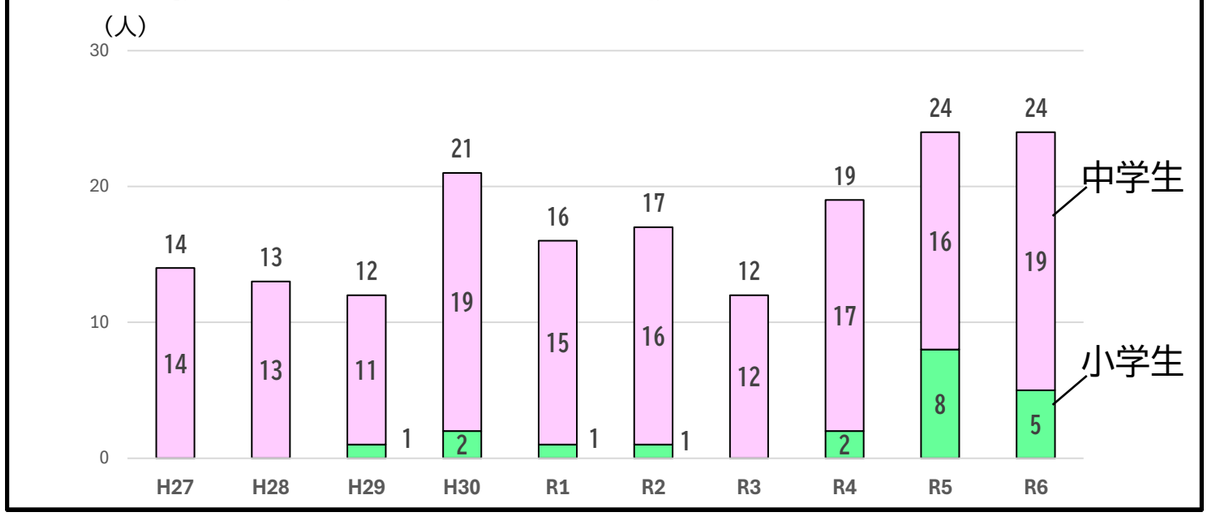


教育支援センターの様子
（個別学習ブース）

③ 白岡市教育支援センター在籍者数の推移

- 白岡市教育支援センターの在籍者数は、年間10～20人台で推移している。
- 過去10年の実績は、中学生の在籍者数が多くを占めており、小学生の在籍者数は、近年、増加している。

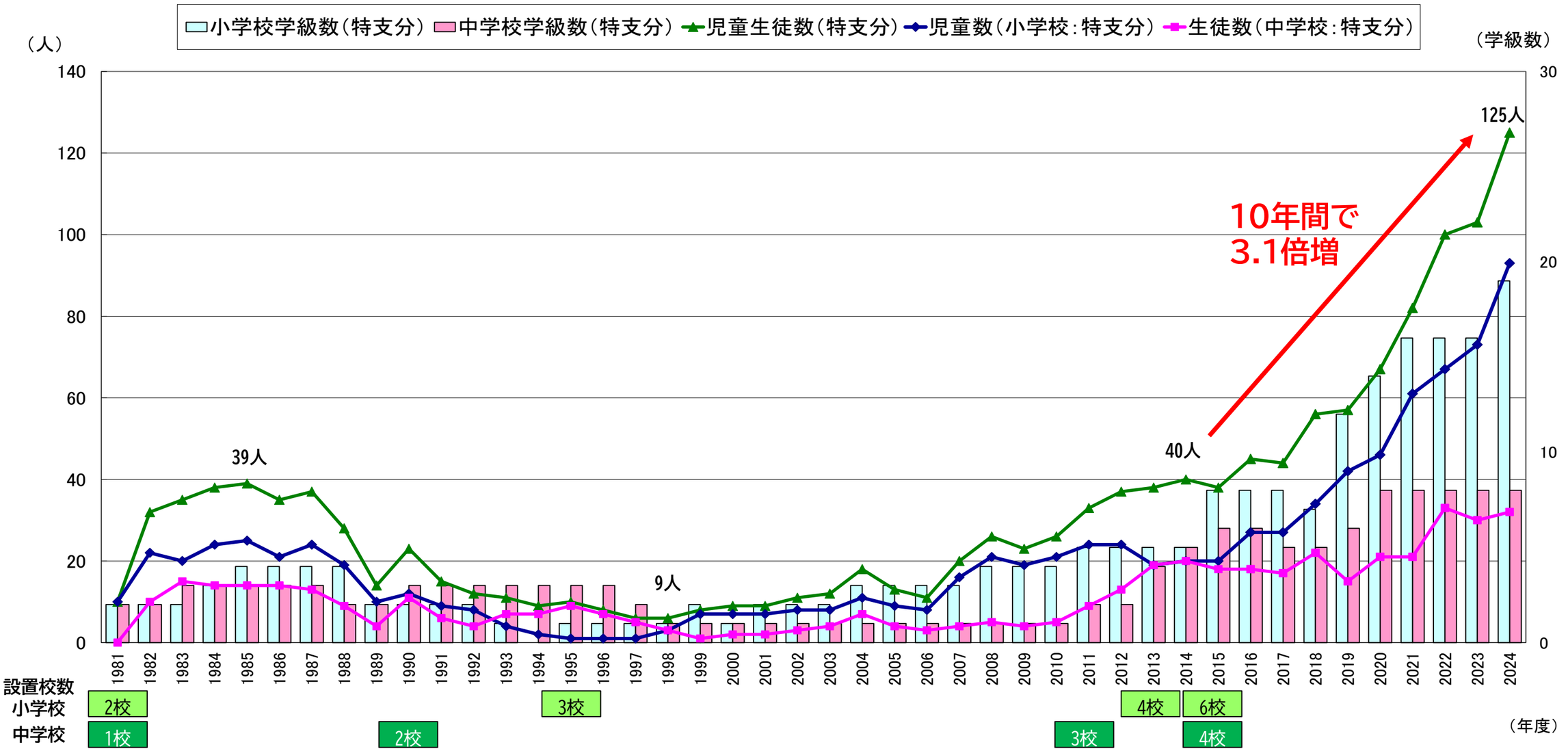
■白岡市教育支援センター在籍者数の推移



2 特別支援教育

① 児童数・生徒数の推移（特別支援学級）

- 本市では、昭和56（1981）年の時点で、小学校２校・中学校１校に特別支援学級（旧・特殊学級）が設置されており、その後、設置を拡大してきている。
- 平成27（2015）年にはすべての小中学校で特別支援学級の設置を実施している。
- 市全体での特別支援学級の児童生徒数は、昭和60（1985）年の39名から減少傾向となり、平成10（1998）年には９名となっている。
- 平成18（2006）年の学校教育法改正による特別支援教育の本格的実施により、児童生徒数は再度増加傾向となっている。特に平成26（2014）年から令和６（2024）年までの10年間では児童生徒数がおよそ３倍になるなど、ニーズが高まっている。合理的な配慮に対する保護者の理解が進んだことなどもあり、特別支援学級の児童生徒数は、今後も増加することが考えられる。



- 過去10年間、本市の児童生徒数は微減傾向にあるにもかかわらず、特別支援学級に在籍する児童生徒数は増加傾向にある。

2 特別支援教育

② 特別支援教育の種類

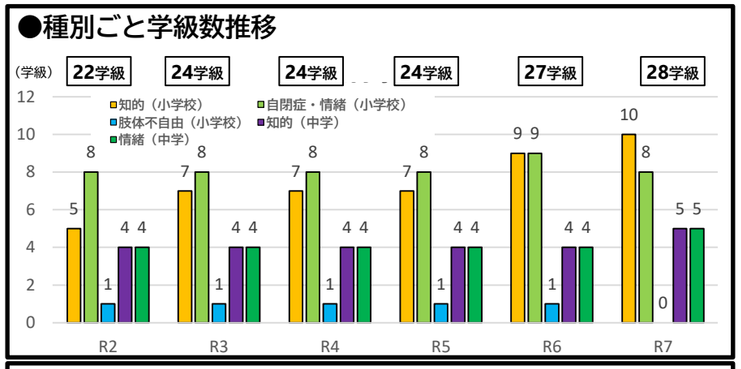
- 大きく分けて固定学級の「特別支援学級」と、通常学級に在籍しながら通う「通級指導教室」があり、知的障がいおよび自閉症・情緒障がいを対象とした特別支援学級は市内の全小中学校に配置されている。

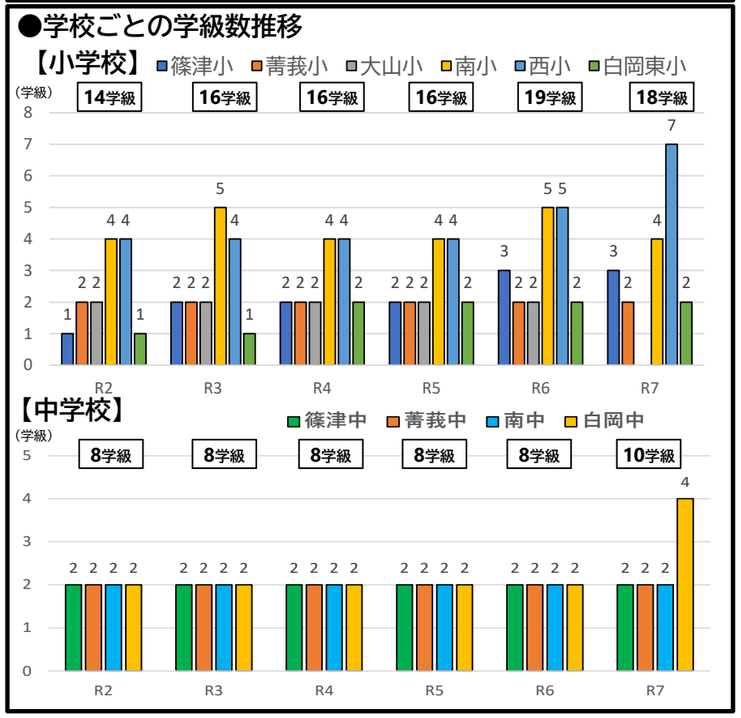
１）特別支援学級

固定の支援学級が全校に用意されている。

種別	設置校
知的障がい学級	全９小中学校
自閉症・情緒障がい学級	全９小中学校
病弱・身体虚弱学級	令和７年度の設置校はなし。 （※）これらの学級は必要な児童生徒がいる場合に、児童生徒の指定校に設置される。 令和６年度までは、南小に肢体不自由学級の設置実績があった。
肢体不自由学級	
弱視学級	

２）特別支援学級数の推移





知的、情緒の学級は各校に１学級以上配置され、ニーズが大きい

✓ 特別支援学級の児童生徒は、年々増加傾向であり、教室の確保が課題となる学校もある。
✓ 特別支援学級数は、西小学校と白岡中学校が増加傾向である。

３）通級指導教室

- 「通級」とは、必要に応じた特別の指導で、子どもの在籍する小学校の教育課程に加えて、またはその一部に替えて指導するものである。障がいの程度の改善を図り、充実した生活が営めるよう、週１～２回程度指導している。

種類	対象など	設置校
「ことばの教室」 言語障がい・難聴など	• 「発音に誤りがある」「吃音がある」「耳がきこえにくい」児童が対象 • 設置校以外からの通級には保護者の送迎が必要	篠津小学校
「情緒通級指導教室」 自閉症、LD、ADHD、発達障がいなど	• 「集中して学習することが苦手」、「相手の思いや感情を考えて行動することが苦手」、「集団の中で指示を聞くのが苦手」等の児童が対象 • 設置校以外からの通級には保護者の送迎が必要	西小学校 白岡東小学校

✓ **通級指導教室の設置は、一部の学校に限られており、未設置校（南小学校・菁莪小学校）の児童は、保護者の送迎のもとで他校へ通級する必要がある。**

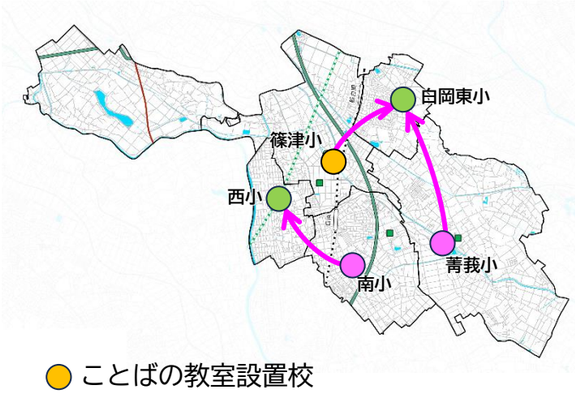
４）情緒通級指導教室の設置状況・利用状況

●「ことばの教室」　設置校

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7 児童数（人）	利用率
篠津小	14	15	11	11	13	11	480	2.3%
菁莪小	4	3	3	2	1	1	225	0.4%
大山小	1	1	1	1	0	ー	ー	ー
南小	4	2	4	4	6	7	649	1.1%
西小	4	5	7	5	5	6	788	0.8%
白岡東小	0	6	8	6	8	6	478	1.3%
合計	**27**	**32**	**34**	**29**	**33**	**31**	**2620**	1.2%

●情緒通級指導教室　設置校

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7 児童数（人）	利用率
篠津小	0	0	0	2	2	2	480	0.4%
菁莪小	6	7	7	5	4	6	225	2.7%
大山小	0	0	0	0	0	ー	ー	ー
南小	5	3	2	1	1	3	649	0.5%
西小	9	8	11	15	17	13	788	1.6%
白岡東小	1	9	8	10	10	12	478	2.5%
合計	**21**	**27**	**28**	**33**	**34**	**36**	**2620**	**1.4%**



✓ **未設置校の児童の利用率は、設置校の児童の利用率と比べると、低い傾向となっていることから、未設置校への配慮が必要となる。**